

取組名	転造工程における実績の見える化と業務改善のためのデータ活用		
企業名	株式会社名友産商（小牧市）		
業 種	ボルト・ナット・リベット・小ねじ・木ねじ等製造業	従業員数	40名

使用デジタルツール
ユニケージ開発手法 (有)ユニバーサル・シェル・プログラミング研究所

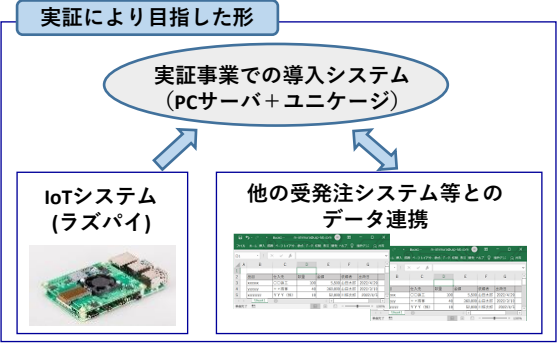
課題・背景

自社の製造工程は、主に多品種少量生産であるが、機械・人・品番によりバラツキが大きく、紙ベースでの記録のため、何にどれだけ時間を要しているのか把握するのが困難であった。そこで、前期よりIoTを試験導入し、ITベンダーと協力しながらシステム開発を進め、デジタル化の取り組みを開始した。しかし、生産管理への応用やデータ連携を進めるために必要な社員のITスキルやシステム環境が十分ではなく、その対応が課題となっていた。

取組内容

IoT で取得した生産状況データの活用や、導入予定の受発注システムとのデータ連携等を行うために、新たなツールの導入及びデジタル人材の育成を図ることで、今後のDX推進への基盤固めとする。

実証では、システムを導入・設置し、本格運用時にIoT や他システムとのデータ連携等を行えるようになるために、アプリケーション開発やシステム構築等に関する教育受講と指導を受けた。



実証により目指した形

実証事業での導入システム
(PCサーバ＋ユニケージ)

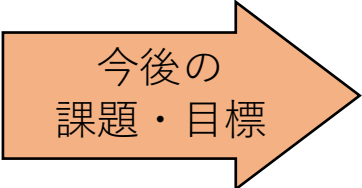
IoTシステム
(ラズパイ)

他の受発注システム等との
データ連携

結果・効果

今回の実証を通して、生産管理システムの本格運用に向け、IoT システムの機能や各システム間のデータ連携、一元管理等について、自社の環境に即したIT 知識と知見を高めることができた。一方、守秘義務等による複数ベンダ間の連携の難しさも経験した。

こうした経験は、今後、自社が主体となってDXを推進する上で、貴重な経験となり、活かされるものと考ええる。



今回の取組を進めていく中で①推進体制の弱さ②データ公開の制限等の課題が顕在化し、目標を達成することができなかった。今後は、①4月よりIT 専攻の新入社員を加え、IT 担当を2名体制に増員②IoTシステムを中心としたデータ連携の強化等により、「受注～生産～出荷」の各システム連携の完成を目指す。